

#### 4. 県立文化施設の活用

若者が豊かに成長していくためには、文化、運動、さまざまな活動への参加等、たくさんの機会に触れていくことが必要です。

その中でも特に県立美術館、県立博物館、県立科学館、県立考古博物館や県立図書館などでは、心の豊かさを養うためのプログラムが行われており、内容も工夫されているので、若者の育成の観点からもっと活用できないかと考えました。

そこで、多くの若者がもっと施設を利用しやすくなるよう、現在小中学生に配布している「夏休みフリーパスポート」の対象を高校生にまで拡大するとともに、プログラムの内容も「美大に行きたい」、「将来は考古学の道へ…」などと考えている若者向け（中学生や高校生対象）のプログラムを学校、地域等を通してもっと広く周知していく必要があると思います。

<県には・・・>

- ①「夏休みフリーパスポート」の対象を高校生にまで拡大（入館料無料）
- ②各県立施設では、若者向け（中高生）プログラムの広報の充実

#### 5. さわやかスマイルプロジェクト

近年、いじめや不登校、引きこもりなど若者を取り巻く環境ではさまざまな問題が発生し、社会でも大きな課題となっています。

このような中で、若者の健全育成を図っていくためには、大人たちが地域で見守り育てる気持ちを持ち、問題行動や非行を未然に防ぐため、啓発活動や地域活動の推進に努めるとともに、安全・安心な地域づくり運動の推進に努めることが重要になってきます。

ライフスタイルの変化や価値観の多様化等により、地域コミュニティの希薄化が問題になる中、すぐに実践できることの一つとして、「あいさつ」があります。「あいさつ」は、生活習慣を身につけていくとともに、人と人とのコミュニケーションを築いていくうえで非常に重要な役割を担うものです。

また、人と人とのつながりを深めることで、大人たちが子どもを見守る（防犯等）体制をつくることが可能になり、結果、若者の健全育成にもつながるのではないのでしょうか。

「あいさつ」運動は、全国各地で実施されており、山梨県でも「声かけ、あいさつ運動」が実施されています。これまでも標語の募集や学校への訪問などさまざまな取り組みが行われており、実際に道を歩いていても子どもや若者があいさつをする姿を目にします。

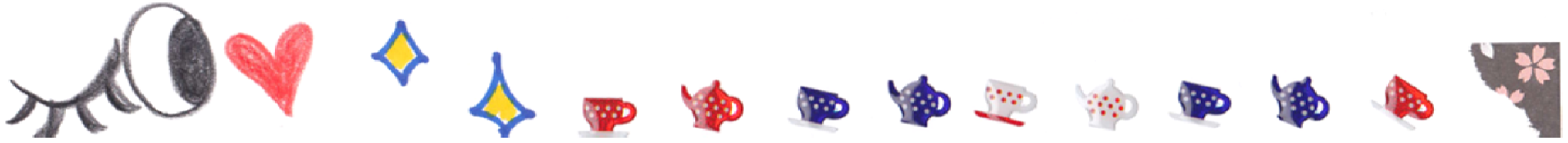
一方の大人はどうでしょうか。子どもは大人を見て育つと言いますが、実際にあいさつをしている大人はまだ少ないように感じます。心豊かでいきいきとした若者を育てるため、まずは大人が地域の大人や子ども、若者にあいさつをし、温かく見守り支えていく環境をつくることが重要です。

そのために、地域、学校、団体等に加え企業なども巻き込みながら、大人を中心として広くあいさつの重要性、効果等を意識啓発していくとともに、実践的な取り組みにつなげていくことが必要だと考えます。

Let's  
Together







<県には・・・>

- ①「心に残るあいさつ」の募集・・・あいさつをした時に心に残った出来事やあいさつから生まれた人と人との交流等を広く県民から募集し、ホームページ等で掲載をすることで、あいさつの効果が認知され、運動が広まっていくことが期待できます。
- ②県民向けあいさつリレー・・・現在の取り組みの中で、県庁内を対象として「さわやか・あいさつリレー」を実施していますが、これを広く県民向けに実施します。各市町村等と連携を図り、持ち回りで順番にあいさつ運動を展開していきます（例えば週間を設けるなど）。県も各市町村に出向き、運動に参加します。地域等に呼掛けてもらうのはもちろん、教育委員会等を活用し、学生と一緒に駅前などであいさつを行うのも良いのではないのでしょうか。
- ③メディアの活用・・・あいさつ運動を実施している様子を「県からのお知らせ」などで放送することで、「心に残るあいさつ」の募集同様、運動が広まっていくことが期待できます。
- ④キャラクターなどの活用・・・山梨県の「あいさつ運動」を推進するために、キャラクターやアイドルを使うことも効果的だと思います。例えばサクライザー、ほっぺちゃん、ご当地アイドルなどに「たすき」や「わっぺん」などを付けて、それぞれの活躍場所で啓発してもらうのはいかがでしょうか。
- ⑤替え歌によるあいさつの推進・・・誰もが口ずさめるような簡単な「あいさつ」に絡めた替え歌を作成し、あいさつ運動をはじめさまざまな機会を活用していくことで、「あいさつ」を推進していきます。



例	「あいさつ推進」の歌
<サザエさんの替え歌>	
<p>みんなで あいさつしようよ じぶんから ~          あなたも わたしも 元気になれる</p> <p>おはようございます みなさんこんにちは          ルールルルル~ 今日は いいきもち~</p> <p>明るいえがおに 幸せが ついてくる          あなたも わたしも 元気になーるーね</p> <p>みんなが笑ってる 夕焼けも笑ってる          ルルルルルル あしたもいい日だね。</p>	







## 6. 有害サイトへの警告について

少し前までは携帯電話、いまやスマートフォンが主流になるなど急速にネット環境が変わってきています。簡単にクリックするだけで、世界各国の人たちとつながることができ、いろいろな情報を得ることができる一方、そのお手軽さゆえに若者がトラブルに巻き込まれ、被害者にも加害者にもなるケースも増えています。


「山梨でも親に言えず、体の写真を知らない相手に送信していた。たまたまこのケースに関しては、親が異変に気が付いて対応された。」という記事が最近新聞に掲載されていました。子どもは学校でインターネットや携帯電話のトラブルについて学習する機会があると思いますが、親も子どもを守るためにこのような知識を習得する機会が必要だと考えます。

特に今はもう6割がスマートフォンの時代となっており、今後はスマートフォンが主流となっていくのだと思います。スマートフォンは、個人個人でパソコンを携帯しているようなもので、有害サイトをブロックするのは難しいですし、アプリなど聞き慣れない用語や使い方、トラブルなどがこれから出てくることが考えられます。

このような有害サイトへの被害から子ども達を守るために、親にも学習する機会を与えるとともに、注意喚起を行っていく必要があります。



<県には・・・>

- 
- ①有害サイトへの警告として、「親子で知ろうスマホHOWTO（メリット、デメリットを知る）」のように大人のレベルアップにつながるような講座を実施
  - ②親子で学べるPC（インターネット）教室等の開催
  - ③大人や若者がよく見る夜の時間帯に、TVにて「県からのお知らせ」として有害サイトへの注意喚起を促す
  - ④従来の若者施策や相談機関の枠組みを超え、関係局等や事業者等と連携して、若者が安全に安心してインターネットを利用できる環境づくり
- ・「子どもヘルプデスク」などを設置し、メールで相談を受付ける。
  - ・メールを受付けた場合には、受取の返信をするとともに、回答期限を相手方に示してあげるようにする。
- ⑤相談事例の情報をデータベース化してHPで紹介





## 第4章

# 県の「若者」施策の充実



### 1. 地域協議会の設置

若者に関するさまざまな問題に対応していくためには、行政だけではなく、NPO、若者育成団体、企業（商工会）、地域、医療、法律等各専門機関等の協力が必須となってきます。

行政で支援できていない若者たちへの問題や課題などについて問題点を共有し、行政への提言やNPO等の活動に反映させていくための場として、ネットワークと併せて協議会の開催が必要と考えます。

また、若者の育成支援への取り組みは、行政だけが担うのではなく、家庭や学校、企業、地域など社会全般に深く関係しています。それには、将来を担う若者を、県民一人ひとりが関心を持ち、みんなで育てていくという気運を盛り上げていく必要があると思います。

<県には・・・>

①県への提言等の受け入れ窓口の設置及び施策への検討

②協議会開催の場の提供

③協議会で検討した内容等をHP等で公表（透明化を図る）

④国と同様に「子ども・若者育成支援強調月間」を設け、期間中に育成支援のための活動を集中的に実施して、県民運動として盛り上げる。



### 2. 山梨県若者サポートステーションの周知・充実



若者サポートステーションの取り組みは「仕事をしたいけれど、どうしたらよいか解らない」、「就職活動がうまくいかない」、「就職しても長く続かない」などの悩みを抱えている若者には、ある程度認知はされていると思います。

しかし、実際に学校に通っている学生等には、まだ施設の認知がされていない状況です。いざ悩みがあったら相談できる場所があるということを周知し、若者の就職の悩みを事前に予防するためにも、学校との連携を進めていくほか、ちらし、ポスター等を県、市町村の各施設に配置したり、自治会、町内会などを通して広報を行うのも良いのではないのでしょうか。併せて、実際に利用を考えている人も、活動の様子や、どのような人が対応してくれるのかなどを事前にホームページ等を通して知ることができれば、安心して利用することができるのではないかと考えます。

また、こうした悩みを抱えている若者は、実際に仕事に就くことができても長く続かない場合があります。

そのため、職場研修の機会をもっと充実させることで、事前に「働く」ということを実感することができるのではないのでしょうか。「相談型」の対応も大事ですが、機動力のある「併走型」の対応も充実させてほしいと思います。



<県には・・・>

- ①若者が興味を持ちそうなホームページ、ちらし、ポスター等のデザインの工夫
- ②幅広く広報を行うため、県、市町村の各施設への配置の他、自治会、町内会などを通しての広報を行う等の工夫
- ③若者やその家族が利用しやすいように、スタッフ紹介や活動報告などを写真等を交えてホームページに掲載する

